〇歳児日標

- 生活(歩く、食べる)にプラスになっていくような玩 具や遊具を設置していく。「できる」という自信を持てる ものと、チャレンジする気持ちになれるもの段階をふん で難易度をかえていく。
- 絵本や玩具、遊具などはば広い種類のものに触れそれ。 ぞれの子が自分の好きなもの、興味をもつものを増やせ るような援助をしていきたい。

振り仮り

つかまり立ちや伝い歩きを誘引できるように、壁につけ る玩具やトンネル、ロノジーなどを用意した。子どもた ちの成長に合わせて玩具を設置する高さを変えたり、レ イアウトを変えたりしながら積極的に遊びやすいように していった。

玩具は口に入れて遊ぶことが多いため、清潔と安全性に 気をつけながらそろえていった。つかむ、はなすという 指先を使って遊ぶ玩具は大きさや素材をかえ、難易度を あげながら楽しめるようにし、成長につながるようにし た。



目指すこどもの姿

令和6年度こどもっと保育園自己評価

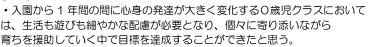
生き生きと遊ぶこども 心も体も健康なこども

各クラスごとに今年度の重点目標を立て、主体性の育ちの観点と環境を大事にす る視点を取り入れて日々の保育の中で経過を追っていった。

1歳児日標

- 子どもの「楽しい、面白い、何だろう?」という経験や気付きを大切にしてい。 く。その一つとして感触遊びを年間のテーマとして取り組み、様々な素材に触れ
- 日々の活動の中で、「体を動かしたい」という欲求を満たすことができるよう。 な遊びを考え実践し、静と動のメリハリも大切にした保育をする。
- ・感触遊びでは小麦粉粘土、タンポスタンプ(ゆび絵の具)など、する機会を持 った。初めの頃に比べると新しいことに対する期待感が表れている姿があり、 「楽しいことが待っている」というわくわくした気持ちで参加していた。回数を 重ねていくことにより、「やってみよう!」という気持ちが生まれ、また、自分 一人から友達と一緒に行う楽しさにもつながり、感触遊びを通して心の成長を感 じ取ることができた。
- 体を動かしたい、歩きたいという思いが強く、雨の日を活用して運動サーキッ トを多く取り入れ、室内を広く使いのびのびと体を動かして遊ぶ機会を作ってい った。また、公園では保育士も一緒に、体を動かして遊べるように意識した。自 然と子どもたちが斜面や段差の上り降りにも挑戦し、散歩先では体全体を使って 遊ぶことができた。

まとめ



- 1歳児の欲求を様々な活動を通して満たしてあげることにより、情緒の安 定と次の活動への意欲が芽生えてくることを感じた。欲求をしっかりとらえ ることの重要性を今後の保育に生かしていきたい。
- ・乳児から幼児への変わり目の難しい時期、2歳児の子どもたちの願いや葛 藤を受け止め、応答的な関わりを保育士は常に心がけ子どもたちの心の育ち を大事にしてきた。子どもたちが、やりたいことをとことんやる、楽しい体 験をする裏に保育士の根気強く愛情を込めた養護的な関わりがあることに注 目したい。今後も継承していくべき保育士の姿が見られた一年であった。







- わらべうたや歌を通して、ともだちと一緒に遊ぶと楽しいなと 感じる体験をする。
- ・意欲の出る言葉かけを工夫し、出来ることを増やし、自信を持 って生活できるようにしていく。

振り返り

ちょっとした時間の中でもわらべうたをする事を心掛け、小さな 集団から大きな集団で遊ぶ楽しさを感じることができたと思う。 子ども達から「ちんちろりんをやりたい」「〇〇を歌いたい」 等、子ども発信で活動でき、以前は恥ずかしがっていた子も少し ずつ積極的になってきた。

朝の会の集まりの時、様々な歌をピアノに合わせて歌ってきた。 子ども達からのリクエストにきちんと応えることにより、元気に 楽しく歌う姿が多く見られるようになった。

排泄面は、個々の様子や発達段階をよく把握し、無理強いする ことなく、進めてきた。根気強く繰り返すことで、成功する喜び や褒められる喜びを大いに感じられたと思う。生活習慣の自立は 自分でやりたい気持ちを汲み、援助するタイミングを図りなが ら、少しずつ出来ることを増やしていった。



保育の質の向上を目指し、ドキュメンテーションを作成し子どもの姿を語り合い共感性を高めていった。 各、年齢ごとに保育士が注目した場面で遊びの中や子ども同士、或いは保育士との関わりから育ちを見つ める機会となった。今後も日常のあそびに詰まった「子どもの育ち」をドキュメンテーションというツー ルを使って表現していきたい。保育により「心動く瞬間」を大事にしていきたいと思う。